

令和6年 天皇誕生日祝賀レセプション 大使挨拶

ケーラー元大統領
リントナー国務大臣
連邦議会議員の皆様
ご列席の皆様

本日はBVGのストにも拘わらず、このようにたくさんのお客様にお越しいただいたことに感謝申し上げます。

天皇陛下は2月23日に64歳になられました。心よりお祝い申し上げます。天皇陛下は日本国民の統合の象徴として、日々国民と喜びや悲しみをともにされてこられ、元日に発生した能登半島地震においても被災者に思いを寄せられております。震災の直後、シュタインマイヤー大統領はじめドイツの皆様から温かいお見舞いのメッセージが寄せられました。心より感謝申し上げます。

リントナー外務省国務大臣におかれても、大変ご多忙の中御出席頂き有り難うございます。リントナー国務大臣は、昨年5月のMunich Leaders Meetingに出席するため訪日されたほか、11月の日独フォーラムの際にレセプションを開催頂くなど、常日頃から、日本からの訪問者を暖かくお迎え頂いていることにこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて、現在、国際社会のパワーバランスが急速に変化し、世界は歴史の転換点にあります。このような中、我が国は、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化し、自由で開かれたインド太平洋の実現のため、同盟国・同志国を始め、幅広いパートナーと共に引き続き尽力してまいります。

この一年の日独関係を振り返りますと、ロシアのウクライナ侵攻以来、日独は基本的価値観を共有するパートナー国としてのお互いの重要性を再認識し、日独の協力がこれまでにないほど緊密化している状況が継続しています。特に、昨年3月に、シュルツ首相他連邦政府の6人の重要閣僚が訪日して日本にとっては初めての政府間協議が行われ、主に経済安全保障をテーマとして議論が行われ、その後の5月のG7広島サミットにつながりました。日本で開催された多くのG7の閣僚会合に、多くのドイツの閣僚にご参加頂きました。

日本はロシアによるウクライナ侵攻直後から、独G7議長国がリードした対露制裁、ウクライナ支援に加わり、日本がG7議長国となった昨年も、この方針を継続しました。その背景には欧州とアジアの安全保障は不可分との認識がありましたが、昨年秋以降顕著となった露朝の軍事協力は、残念ながらそのことを証明しています。日本は、ウクライナ復興支援のために、2月19日に日

ウクライナ経済復興推進会議を開催し、地雷・不発弾対策、電力・エネルギー分野等に関する文書など、計56本の協力文書が署名されました。ドイツは6月にベルリンでウクライナ復興会議を開催する予定であり、この分野においても引き続き日独で緊密に連携していきます。

中東情勢について、我が国はハマスによるテロ攻撃を非難し、人質の早期解放を求めています。同時に、ガザの人道状況の悪化を懸念しており、先般も新たにWFP等国際機関に対する人道支援の実施を表明したところです。この問題においても日独において緊密に連携して行きたいと考えております。

安保・防衛の分野では、日本の自衛隊とドイツ連邦軍の共同活動を促進するための日・独物品役務相互提供協定（日独ACSA）が1月29日に署名されるなど、日独間の安保・防衛面での協力も進展しています。ドイツは近年、継続的にインド太平洋方面に連邦軍を派遣してきており、日本としてこれを歓迎していますが、日独ACSAは、こうした協力を制度面で強化するための基盤となるものです。

経済の分野では、特に、日独両国で経済安全保障や、水素、再生可能エネルギーへの関心の高まりを受けて、重要技術分野での新たな連携が次々と生まれております。最近のものだけでも、①ドイツ5Gインフラにおける独1&1社と日本の楽天グループの協力、②川崎重工と独RWE社がNS州リンゲンで、水素燃料100%の商業規模ガスタービンの建設（26年からの発電開始を目指す）などが挙げられます。国際情勢において、経済分野においても様々なりスクへの備えが必要となる中で、日本は比較的安定した国情、高い技術力、優れた人材基盤、高度なインフラを有していますので、投資先としても注目いただければと思います。

来年は大阪・関西万博が開催されます。2025年の愛知万博には、本日まで出席のケラー大統領にお越し頂きましたが、独政府も循環経済をテーマにパビリオン参加していただく予定と伺っており、明年、ドイツから多くの方が大阪・関西万博を訪れることを期待しております。

科学技術分野では、今年は日独科学技術協力協定が締結されて50周年を迎えます。両国は半世紀にわたり、宇宙・海洋、環境エネルギー、ライフサイエンスなどの分野で協力を重ねてきました。また近年はAI、量子、水素技術、ロボティクスなどでも連携を深めており、両国の研究機関や大学間の協力が更に深まることを期待します。

文化交流という文脈では、日本を舞台とした、ドイツの巨匠ヴィム・ベンダース監督の「Perfect Days」がドイツでも公開され、オスカーにもノミネート

されています。また、宮崎駿監督のアニメ「君たちはどう生きるか」も今年の初めから公開され好評です。更に、村上春樹の「街とその不確かな壁」は今年初めの発売以来、シュピーゲル詩の小説ベスト20で4週続けて一位を維持したほどの人気です。こうした映画や小説を通じて、ドイツの皆さんに日本文化に親しんでいただければと思います。

喜ばしいことに、昨日、日本とドイツの女子サッカー代表がパリ五輪への出場を決めました。両チームのパリでの活躍を期待します。

皆様と共に天皇陛下のご健康をお祈りするとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となること、そして皆様のご尽力により日独関係が更に発展することを祈念して、私の挨拶といたします。ご清聴、有り難うございました。